

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4490100239		
法人名	社会医療法人敬和会		
事業所名	グループホームおおざい憩いの苑		
所在地	大分市大字志村字谷が迫587番地の1		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成31年2月27日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成31年1月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・周囲を緑に囲まれた静かな環境で、鳥のさえずりや虫の声を聞き、四季折々を肌で感じ、ゆったりした時間を過ごせています。  
 ・ホームのモットーである「あなたらしくいきいきと」を念頭に、入居されている方々の精神的安定と身体機能を低下させない事を第一に考え、サービスを提供しています。  
 ・家族と密に連絡を取り合い、来苑時には近況報告を行うなど、連携を図りながら入居されている方々の支援を共にするように努めています。  
 ・入居者の健康管理に注意し、早期発見・早期治療に努め、24時間の医療連携体制が取れています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

・母体は医療機関であり、協力医による頻繁な往診があり医療面で安心である。  
 ・地域との結びつきを大切にし、自治会に加入したり地区の祭りに参加して地域に溶け込もうとする姿勢が伺われる。  
 ・苑では家庭的な雰囲気を作り出して利用者の皆さんが家にいるような感覚を持っていただけるようなケアに取り組んでいる。  
 ・利用者本位の支援に努めるよう職員の研修を欠かさず、利用者や家族から信頼されるよう研鑽を積んでいるのが伺われる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	敬和会の理念と地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。地域行事への参加を行い、交流の機会に繋げている。また、豊寿苑の理念も管理者及び職員全員が理解し、ケアの実践に活かしている。	理念を玄関やホールなど施設内の目の付く所に掲げ職員全員で常に心に思い、理念の共有に努めている。利用者本位で家庭的な雰囲気になるよう職員間で理念を共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	天候や体調に合わせ、散歩・ドライブへ出かけている。自治会へ加入し、祭りなどの地域行事へも参加している。	大在地区の祭りを見に行ったり、おみこしが施設にやって来たりして地域との双方向の交流が行われている。地域行事の大野川のコスモスの植え付けにも参加したり、秋のコスモス祭りには利用者と共に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会を通じ、地域の方々へ認知症の理解に努めている。認知症カフェを開催し、地域住民へ認知症についての知識や予防方法などについて講演も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動内容や現状報告、ひやりはつと、事故報告を行い、貴重なご意見をいただき、ケア改善に活かしている。	区長・民生委員・老人クラブ・市担当者・包括支援センター・大分リハビリセンターなどからの出席がある。現状報告をし、参加者からヒヤリハットの対処方法を聞かれマニュアルの再確認と職員の再認識で振り返ることとした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に参加していただき、介護保険サービスの改定や加算についての助言や指導を受けながら、サービスの向上につなげている。	市との情報の共有に努め、何か疑問があれば直ぐに電話したり市に出かけて問題解決に当たり連携を密にしている。推進会議にはいつも参加があり、法改正についても適時アドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び全職員で安全面に配慮しながら、行動の見守りや付き添いを行い、拘束をしないケアを実践している。	法人内外の研修があり職員全員が拘束しないケアに取り組んでいる。日中は玄関に施錠はなく、利用者に対しさり気ない見守りを常に行っている。行動は制止するのではなく利用者本位の支援に心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の人権擁護や身体拘束ゼロについて、苑内外の研修に参加し、伝達講習を行い職員全員で、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修や勉強会にも参加し、事業所内の全体会議などで伝達講習を行い、職員の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧にわかりやすく説明し、同意の上、署名、捺印をし契約を結んでいる。 また、わからないことがあれば、その都度納得のいくまで説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに対する意見や苦情については、管理者や計画作成者が窓口となっている。 意見箱を設置し、気軽に意見が伝えられるよう、場所も考慮し設置している。	面会時や家族会で意見を聞いている。ケガをした時の対処方法を聞かれ、その対処結果を報告した。意見の言いやすい雰囲気づくりに努め、受けた意見要望などを日常の支援に役立てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や要望は、ミーティングや職員会議で聞くようにしている。 また、日頃から職員とコミュニケーションをとり、意見交換を行っている。	ミーティング時や何かあればその都度意見を聞いている。管理者と職員の関係は良好で、意見を言いやすい雰囲気である。疑問点などあればみんなで相談し、その都度解決している。法人への要望も管理者を通じて行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けて、勤務希望や勉強出来る体制を確保している。 また、年に1回職場環境について職員アンケートを実施し、処遇改善に活かしている。 ユニット交替も定期的に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による目標管理シートを作成し、目標達成に向けて、研修を受ける機会を与え、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所などと交流を図り、一緒に学んだり、親睦を深めるなど、お互いにサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、本人の意向を確認している。 入居直後は、環境の変化で不安が大きく情緒不安定になることがある為、目配り、気配り強化に努め、コミュニケーションを密にとるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、面接調査時に本人及び家族の要望や意見を聞き対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にデイサービスやデイケアを利用して、入居後も引き続き利用の希望をされた場合や、精神的安定を図る必要がある場合は、医療デイケアの調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事については、入居者の残存機能に応じて参加していただいている。 ともに行う上で、人生の先輩であることを尊重し、お互いに支えられる関係づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡にて、近況報告を行い、必要に応じて病院受診などの協力依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの際に、自宅や馴染みのある場所に行き、知人と談笑したり、飲食する機会を提供している。	友達や近所の人が訪ねて来たり、馴染みの散髪屋に家族が連れて行ったりし、これまで馴染んできた人達や場所とのつながりを大切に継続してきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性について、職員が情報を共有し、利用者同士の関係がスムーズに行えるよう話題作りなどの支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続が損なわれない様、生活環境、支援内容、注意が必要な点について、情報提供しきめ細かな連携を心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを図る中で、想いや意向の把握に努めている。 また、介護記録などから本人の希望をくみ取るよう努めている。	普段のかかわりや会話の中から希望や気持ちを感じ取っている。アセスメントシートや介護記録の中から利用者の思いを把握し、本人の意向に沿った支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの作成、家族、関係者、医療機関からの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日々の様子を観察、心身状態を把握し、介護記録に記録し職員間の情報共有に努めている。 介護記録やユニットノートも活用し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の意向を踏まえ、本人が楽しめること、好きなこと、家族が希望することを聞き反映させている。 ケアマネを中心にユニットスタッフで話し合いを行い、ケアプランを作成している。	モニタリングを行い定期的にユニット会議などで話し合い、気になる時はその都度職員全員で検討している。状態が変更になったときは計画の見直しを職員全員で検討し、現状に沿ったプランを心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録には、介護計画に沿った支援記録を記載し、職員間で共有している。 変化や気づきをユニットノートに残し、ケアの変更に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時や家族が定期受診に付き添いが出来ない場合は、職員が付き添いの受診支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会などで、地域包括支援センターの職員や、民生委員、自治会長より、地域行事の情報を頂き参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医または協力医療機関を定期的に受診または往診してもらい、健康管理を行っている。 必要時は、情報も提供している。	入所前からのかかりつけ医を利用することができる。近くの協力医が何かあれば直ぐに対応してくれ、訪問歯科や往診が利用できる。家族が受診に行けない時は施設の看護師が同行し結果は家族に報告し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護職が入居者のバイタルチェックを毎日行い、常に情報を共有している。 また、主治医へ必要時情報を伝え指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体である岡病院との24時間医療連携体制が可能であり、スムーズな対応ができています。 近くの姫野医院の定期的な往診も有り、情報を共有することで、入退院の受け入れ調整も円滑に出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に関する説明を行い、同意書を頂いている。 また、定期的に意向確認も行っている。	入所時に終末期の看取りなどの説明をして家族から同意書を貰っている。状態が変わればその都度確認をしている。深夜でも協力医の対応があり家族も安心している。母体の法人や看護協会などによる看取りの研修にも参加して、職員全員で情報を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人が全体必須として開催しているBLS研修に参加し、実践力を身につけるよう努めている。 AEDを設置しており、レンタル会社の職員による指導も定期的に受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間想定避難訓練を消防署の協力を得て行っている。 地域の防災訓練にも、職員、利用者ともに参加している。 また、市の防災メールに登録し、情報の早期入手に努めている。	消防署の協力の下、年2回夜間想定避難訓練を行っている。裏山からの土砂崩れを想定しての避難訓練もある。出火場所により避難場所を変えている。備蓄は3日分事業所内に常備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアを行う際は、必ず声かけしプライバシーの保護に留意している。 各居室のドアは、本人の居る居ないにかかわらず、必ず閉めるようにしている。	トイレや入浴に関して常に声掛けを行いプライバシーに配慮している。全てにおいて利用者本人の了解を得てケアに当たっている。年上として尊重し、名前で呼んだり方言で声をかけたり、その人にとって心地よい方法で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、常にコミュニケーションを図り、本人の想いを引き出すよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れがあるが、一人一人の体調や生活パターンを把握し、支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度、美容室の訪問を依頼しており、本人の希望に添ってカット・パーマ・カラーなど行っている。 日常の更衣は、本人に選んでもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も一緒に明るい雰囲気の中で食べてもらう。 食後は、テーブル拭きや下膳など、後片付けも一緒に行っている。	月に2回のおやつや食事作りを利用者と一緒に行っている。お正月や誕生会など行事に合わせて食事を楽しんでいる。カツ丼など出前をとってみんなで食べることもある。テーブル拭きなどできる事を利用者と一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量・水分量を記録し、職員が把握できるようにしている。また、個々の状態に応じて、食事形態や食器の工夫、食事介助の方法に留意し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、フロアや居室の洗面台で、歯磨いを行ってもらうよう声かけや誘導する。 本人が磨けない場合は、残存機能を活かし、出来ないところを支援している。 また、必要に応じて訪問歯科を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行っている。リハビリパンツやパットが汚染なく、清潔な状態で排泄できるよう支援している。	チェック表を基に排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。昼間はほとんどの利用者が職員の誘導の下にトイレを使用している。夜間は大きめのパッドを使用し、睡眠を妨げないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、散歩、レク体操など適度な運動を行い、便秘予防に努めている。下剤・整腸剤は、主治医に処方していただき調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を実施している。しかし、体調不良や拒否があった場合は、日時の変更や清拭、更衣などを行っている。	週3回入浴を実施しているが、その人に合わせて週2回とか清拭とか柔軟に対応している。入浴を拒否する場合でも無理強いせず、声掛け方法などを変えたり気分が向いた時に行ったりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ共有のフロアで活動してもらい、夜間睡眠が確保できるよう支援する。 天気の良い日は、居室の窓を開け換気を行い、良眠環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理については、服薬マニュアルに添って、職員が責任を持ち、見守りや服薬介助を行っている。 薬品説明書をファイルにし、職員がすぐに閲覧・確認ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張りを持っていただく為に、好きなこと、出来ること、得意なことを見出し、活動の時間を提供している。(洗濯物干し・洗濯物たたみ・テーブル拭き・モップ掛けなど)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩、ひなたぼっこなどの声かけ誘導をおこなう。 地域行事参加や家族行事の外出など、本人の希望を聞き支援している。	初詣など個別に対応している。萬弘寺や佐賀関などへドライブに出かけている。地域の祭りに出かけたり施設の周りを散歩したりしている。大野川のコスモス祭りにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、個人で管理しないようになっているが、希望があれば少額自己管理している。自己管理している方は、買い物時支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけられるよう支援している。携帯電話を所持している方についても、充電や使用の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のホールは、外出時や行事の写真を掲示、季節の花やひな人形・5月人形・クリスマス飾りなど季節を感じてもらえるようにしている。 常時快適な温度調整を行い、静かでくつろげる空間を提供している。	ホールは天井が高く窓が大きく明るい雰囲気である。窓の向こうには竹林が広がりますが、しさが感じられる。四季折々の飾りつけや季節の花などが飾られており、ソファやイスが置かれてゆっくりくつろげる佇まいである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでテレビを見たり、和室で横になって昼寝をするなど、思い思いに過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や家族の写真、大切なものを持参し、馴染みのあるものに囲まれ、居心地良く過ごせるようにしている。	これまで使い慣れた家具や調度品を持ち込まれ、家族の写真などが飾られており、落ち着いた雰囲気の中で過ごすことができている。窓は二重ロックになっており安全に配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が安全に生活できるよう、ベッドや家具などの配置を工夫している。 一人で行動できるよう手すりも設置している。 居室やトイレがわかるようにマークや名前を付けたプレートを設置している。		